

近畿支部報告

<コース、参加者は最後に記載しました。>

1. 令和最初のサンマパーティー

(報告者 15期 金井 澄)

・実施日 2019 10/29(火)～30(水)

・報告

『秋はサンマ、脳みそが長持ちするサンマ、ぜいたくな味わいを』との呼びかけがお盆のころにあった。サンマパーティーは、近畿支部の秋の恒例行事としてもうすでに20年近い歴史を重ね、すっかり定着してきた。



《琵琶湖を望む山上に集う参加者》

令和最初のサンマパーティーは、滋賀県北部にあるピラデスト今津を舞台に開催された。参加者は14名で、会費はひとり11000円(一泊二食で超格安!かつ1000円の返金があった)。東海支部からは川端支部長など3名が、金沢からは黒崎OB会長もはるばる駆けつけていただくなどの豪華キャストとなった。

加藤さんはじめ15期の運営委員(間所、三宅、金井)がこれまでの経験を生かして、知恵を出し合い、買い出しなどもうまく分担し効率よく準備を進めてきた。とりわけ好評だったのが、「芝寿司」と「うどん」であった。金沢の芝寿司は夕・夜食兼用にと特別に取り寄せたものだが、昼間のBBQでおなが一杯になり、手土産の形でそれぞれが持ち帰ることとなった。うどんは当地のスーパーで求めたもの(地元・玉木のうどん、10玉で650円)だ。讃岐の名店・小縣家風の大根おろしをかけて提供したが、これが皆さんからどえりゃーうまいと絶賛を得た。

また、差し入れが多かったのも今回の特筆事項

の一つ。各地の名産であるお菓子ははじめ、果物、漬物など多彩。なかでもアルコールの量が少し心配されたが、黒崎会長がドンと一升瓶の日本酒を出していただいたときの■兵衛の歓声が今も耳に残る。

そして、いつものように、BBQ、お茶会、スライド発表会を楽しくこなしての一日。お茶会は森川宗匠の指導のもと執り行われた。今回は加藤さんより秘蔵?の茶碗の提供があった。アマダクジにより「銘:高三郎」は越前へ、「銘:籠の中」は尾張へ、「銘:秋霖」は三河へとそれぞれ7つの茶碗が新たな旅立ちをした。

天候にも恵まれ、山上で満天の星空も仰ぐこともできた。

翌日も晴天で、琵琶湖を臨む山上のグラウンドで第2回フリスビー大会も実施できた。ちなみに、優勝は三宅さん、準優勝は金岩さん、そして3位は加藤さんとなった。ケイバ風に3連単となると、軽く10万円を超える高配当並みの結果。

あれから半年。予想だにできなかったことが起きた。世界中で猛威を奮うコロナウイルスに日常を厳しく制約され、閉塞感は増すばかり。なんでもない日々がいかに大事なのかと、思い至る今日この頃です。我々に残された時間は、お互いにそんなに多くはありません。それゆえ、大切に大切に生きていきたいと願わずにはおれません。

またいつの日にかサンマパーティーの再開に大いなる期待と希望を抱いて報告とします。



《炭火で食べるサンマはおいしい》

2. 大塩・のじぎくPw

(報告者 11期 加藤忠好)

・実施日 2019 11/21(木)

・報告

各県には県花があるが、兵庫県は「のじぎく」である。かの牧野富太郎が経済的に苦境に陥った

時、救いの手を差し伸べたのが後に南蛮美術館を創設した池長孟である。彼は牧野の植物標本を買い取り散逸を防いだばかりではなく、牧野のために神戸・会下山に植物研究所を設けた。牧野が兵庫県の野山を歩いたのはその時期である。「大塩に咲くのが日本一」と評し、何度も訪れたのが土佐でも咲いていた「のじぎく」であった。

のじぎくは海に近く、明るい場所でよく育つ植物のようだ。当時の大塩の写真を見ると、塩田が広がり、一方、水田が少なくそれ故山まで耕作されていた。のじぎくにとっては最高の環境だったろう。塩田の滯（塩水を引く水路）から山畑までののじぎくは繁茂し、その壮観さは牧野の目を楽しませるに充分だったろう。

そして現代、塩田は消滅し、生産性の悪い山畑が放棄され木々や竹林に代わった。もはやのじぎくが生育する環境ではない。そのことを承知した上で、大塩での牧野追体験PWを企画した。

大塩は姫路市の西部。ほとんどが遠来の人となる。それ故山陽大塩駅集合をゆっくりとした時刻に設定した。上馬夫妻が金沢から参加ということも加味した。集合後、最初は浜街道沿いのかつて塩田で栄えた集落を歩く。建物の佇まい、街道の狭さや曲がり具合がしばし我々を過去に誘う。

山にさしかかると、すぐに主稜に達した。海拔ほぼ0mから歩いたのだが、それくらい低山なのだ。それでも亀岩からは姫路方面、瀬戸内海が、そこからすぐの一本松山からは、淡路島、六甲山系の山々の眺望が楽しめた。



《好展望地：亀岩の上で》

食物に詳しいキッコちゃんが一本松山でシャリンバイの実を見つけると、俄然展望はどこ吹く風、まだまだ長生きできそうな我々であった。

で、肝心の「のじぎく」というと、一本松山あたりまで、殆ど目に入ってこないのだ。中世とい

われている大塩城跡を過ぎるあたりから道端にポツンポツンと見られるようになってきた。これではあまりにも寂しいので、馬坂峠の保護地に立ち寄った。誰もが「オオッ」と言うくらい咲いていた。かつてのように地元の人の手で山畑のようにしてある場所では匂うが如く咲いていた。



《のじぎくと記念写真：馬坂峠附近》

日笠山、のじぎくの里公園、馬坂峠入口でも、見事な花が見られた。しかし、野路というより栽培しているような観は否めない。よって、かつての塩田の風情が残っている中瀬まで足を延ばすことにした。多くはないが群落や滯に垂れるように咲くのじぎくから昔を偲ぶことができた。クコの実もあった。ここでもシャリンバイがたわわに実っていた。女性たちの大いなる盛り上りに「季節はまさに食欲の秋哉」自然の摂理を感じた。

大塩はアナゴのうまいところだ。打ち上げは、地元の寿司辰で軽く食事をすることにしていた。下見では、全員が入ると満杯になるような店構えだったので、一応予約したが、どうぞと通されたのが広い奥座敷、しかも貸しきりだ。一気に宴会気分になった。が、我々は頑として軽い食事の範囲を守った。すし屋にとっては期待はずれだったかも知れない。浜処だけに、にぎりもアナゴ寿司も胃袋が大喜びする味だった。PWに有終の美を添えるに十分な打ち上げだった。

3. 京都・松尾山唐櫃越PW

(報告者 15期 三宅 毅)

・実施日 2019 12/13(金)

・報告

京都の人気ハイキングコースとして京都一周トレイルがあります。ご存知のように京都市街は東、北、西の三方を山で囲われておりますが、その山の中に整備されたトレッキングコースが京

都一周トレイルです。

東山コース、北山東部・西部コース、京北コース、西山コースに分けられており京都市街の展望もよく人気のハイキングコースです。今回のPWは西山コースの一部嵐山、松尾山から苔寺分岐を経てNHK大河ドラマ「麒麟が来る」の主人公明智光秀の本能寺攻めの舞台となった唐櫃越えの一部を歩き洛西に下るルートを企画しました。

阪急嵐山駅、9時40分には参加者16名全員集合。間所夫妻は福井から、森川氏は桑名から参加。前日までは寒い日が続いたが風もなく穏やかな好天で絶好のハイキング日和となった。



《前半の最高峰：松尾山山頂にて》

9時50分阪急嵐山駅を出発し京都トレイル松尾山登山口(トレイ標識No26)へ。記念撮影をした後いよいよ松尾山(275m)への登り。竹林の中を緩やかに登ると明るい尾根に出る。日差しが暖かく紅葉もまだまだ綺麗だ。10時30分松尾山展望台に到着。嵐山駅から40分。眼下には渡月橋や天竜寺など嵐山一帯が間近に広がり三方を山に囲まれた京都市内も一望出来る。比叡山や比良山も良く見える。トレイルの標識に従いしばらく木漏れ日が注ぐ明るい雑木林の尾根を行くとベンチのある広場に着く(11時45分)ここで昼食。伊豫さん差し入れのスープを作る。調理済のたっぷりの野菜に生卵を加えた美味しいスープであった。赤地さんからは抹茶の差し入れ。12月とは思えない暖かい日差しの中、賑やかで楽しいランチタイムでした。

昼食後は急坂を5分下ると西芳寺川に降り立つ。(トレイ標識No51)ここが京都一周トレイルの終点だ。林道を左に10分ほど下ると苔寺である。私たちは幅5メートルほどの西芳寺川を渡渉し対岸を登り返す。(これが京都の平の渡しとか?)丸太の橋を何度か渡り20分程で丁塚着。

ここからいよいよ唐櫃越えの尾根を歩く。本能寺へ向かった光秀に思いを馳せるが、本当にこんな所を大軍が通ったのかとを感じる。

西にしばらく進むと左右に展望が開ける。尾根の南側は眼下に洛西ニュータウン、長岡京市、天王山。遠く音羽山から生駒山などが見渡せる。尾根の北側には愛宕山が近く、遠く比叡山が見える。尾根上には展望台が3か所ありそれぞれ休憩して雄大な展望をゆっくり一時間近く楽しんだ。日の出展望台から急坂を30分ほど下り桂坂野鳥公園に着いた。

野鳥観察の予定だったが鴨が見られたくらいで残念だった。今回のコースは松尾山から一旦西芳寺川まで下りまた昇り返す行程だったので歩行距離の割にはタフであった。桂坂小学校バス停からバスに揺られ30分。阪急桂駅前にて金井さんと合流。優しく可愛い女子高生に記念写真を撮ってもらい、すぐ近くの「グラスホッパー」にて忘年会。ここは自家製燻製料理が人気のちょっとお洒落な店だが通常18時開店のところを16時30分開始の貸し切りにしてもらい高齢者集団という事で料金まで少し安くしてもらった。ありがたい事です。忘年会は一時間半で終了したが何故かおつりがたくさん返ってきたので皆さんで阪急桂駅の中にある喫茶店でお茶して解散。2019年を締めくくった。



《後半の最高地附近：唐櫃越の東ベンチにて》

最後に参加の皆さんからのメールの一部を紹介します。

『昨日はありがとうございました。京の北アルプス横断のコース、平の渡しから針木谷あたりは静かな道でした。稜線からの展望もこれまで歩いたことのある山々が懐かしく見えました。楽しい一日でした。伊豫さん、手違いでバーナのヘッドを置いてきたのが残念。一度はザックに入れたのですがー。』

『京都トレイルコースは2度程、覚えの有るコ

ースでしたが、西芳寺の谷～唐櫃越～桂坂のコースは初めてでした、京都を北・東・南・西と尾根筋から展望出来て最高でした、お世話頂き有難う御座いました。』



《松尾山下りのピークで昼食》

『早安！迷子のけんです。(笑い) 当日は、やはり大明神のご威光あらたかで、素晴らしい天候に恵まれさわやかに楽しくハイク出来ました。今年を締めくくるにふさわしい京都西山トレッキングでした。伊豫さんのスープもこれまで味わった事のない程、美味しゅうございました。(実は当日おにぎりを買って忘れて昼食はミカンとビスケット少々だったのです) 三宅さんの緻密な企画に大満足の日でした。お疲れ様でした。非常感謝！みなさま、いいお年をお迎えください。来年もよろしく願いいたします。』

『楽しい一日をありがとうございました。西山を見直しました。これからちょっとお出かけの山に加えて楽しみたいとおもいます。角度を変えながら京の街を見られるのも遠くの山並みを見られるのも。人数が多いと大中小でもれることも生じたりするのですね。最後にコーヒーのオマケまで感謝です。』

『お世話になりました。私にとっては、汗をかく山行きでした。畔山知栄子さんに作ってもらった頭巾を三枚持って行ったのですが、この季節でも松尾山の登りと唐櫃越でそれぞれ乾いたものと取り替えました。幸い風がなかったので体に冷えが来ず、秋山のような気持ちの良さがありました。』

『京都松尾山PWではお世話になりました。天候にも恵まれ、尾根道からは京都の町並みがよく見えました。うっすらとですが、鈴鹿山脈の雨乞岳と鎌ヶ岳も見えていたようです。紅葉もまだまだ綺麗でしたね！ 赤地さん、お茶ごちそうさまでした。赤地さんにお茶を御馳走になるとは、夢

にも思いませんでした。次回も楽しみにしています。』

『13日の京都の西山を巡るPW、お世話になりました。標高50m～280m～50m～300m～170mと起伏に富むものの稜線は景色も開け、気持ちのよいコースでした。また多数の参加で、2019年締めとなり良かったですね。皆さんからのたくさんの差し入れもありがとうございました。伊豫さん、スープおいしかったです。お手伝いをしてくださった皆さんに感謝します。』

『久しぶりのPW参加でしたが、皆さんのお陰で楽しい一日を過ごすことが出来ました。乾いた落ち葉を踏みしめながらの山行き、京都市街の眺め、大勢でのお喋り楽しかったです。ありがとうございました。打ち上げ会の後は嵐山駅近くのホテルへ。丁度「嵐山花灯路」初日で法輪寺のプロジェクションマッピング、渡月橋のライトアップを楽しめました。』

4. 六甲・観音山Pw

(報告者 11期 加藤忠好)

- ・実施日 2020 1/22 (水)
- ・報告

正月というのは企画に窮する時期の一つである。正月食とゴロゴロ生活で体は重い割に足腰が弱っているのがこの月の特徴でもあるからだ。



《ボルダリングの聖地、北山公園》

よって、地球の重力に逆らわず、路線バスで高度を稼ぎほぼ下山で、しかも変化に富んだ山を考え、六甲山系でも西宮の山で企画した。

最高地点が565.6mのゴロゴロ岳。そして有馬温泉行きの路線バスは、標高500mまで運んでくれるという裏技付きの計画なのだ。このバスは阪神駅、JR駅、阪急駅と回ってくる。集合地を下車バス停の近くで、附近にトイレもある奥池とした。山中ではあるが、阪神間では高地居住を好む人々が多く、周囲は別荘風の風情の良い住宅地である。奥池は芦屋市の水源でもある。

無事全員定刻までに奥池に集合。池を回り、ゆるゆると坂を登るとゴロゴロ岳についてしまった。山頂のすぐ横にも住宅がある。このような場所であるが、真面目に芦屋側から登山すると、一汗も二汗もかかぬばならぬ山頂でもある。ここから北に歩いた。稜線は非対称で西は住宅が建つ緩斜面、東側は花崗岩の断層崖である。しばらく歩くと、住宅がなくなり、全くの山歩きとなる。途中で椅子岩に立ち寄った。花崗岩がソファ状の形にうまく割れていた。三人ぐらい座れる岩で、ここに座れば大阪北部の眺めが良い。坐すれども眼下を見るには少々勇気がいる岩でもある。

さらに稜線を行くと、ちょっとした広場があり昼食タイムとした。道の真ん中に岩が鎮座し、それが獅子の親子に似ている。よって獅子岩と呼ぶことにした。実はこの場所、10年前の冬に大きな荷物を背負い、逆コースで登りつめやっと着いた場所だったのだ。ここにテントを張って山鍋をした場所、そのような思い出話に花が咲いた。



《懐かしの親子獅子岩にて》

さらに稜線を北に歩くと奥池からの道が合流し、道は東に折れ観音山へ。その東峰は、まさに急崖の上にある岩山。眼下に阪神地域が広がる好展望地なのだ。さほど歩いていない我々に対してこの大展望のプレゼントは実にありがたい。

ここから、眼下の鷲林寺までは標高差150m

程度であるが、下見では手強い下りだった。今回は迂回路で途中から沢沿いに歩く道を選んだ。しかも冬での下りなのに、岩があるためか結構な筋肉運動、うっすらと汗をかいてしまった。

鷲林寺では、楠屋さんや高村さんがブームの御朱印をゲット。寺から県道までの道が、昔は平坦地だったはずが、これまた結構な下り坂なのにビックリ。我が身に苦笑した。「やはりお年をお召しになられたのだろうか」と。



《好展望の観音山東ピークにて》

さらに、崇りによって県道をも曲げてしまったという夫婦岩をしばし見物し、歩道で西宮の水源であるトイレもある北山池へ。湖面の向うに甲山の穏やかな山がある風景の中で、伊豫さんご持参の大きな栗羊羹の大小を楽しんだ。そこからボルダリングの聖地・北山公園へ。所々に大きな花崗岩がある自然公園なのだ。岩の上に立てば、西に六甲山系、東に甲山、南に阪神の町が広がっている。公園を出て夙川を渡り越木岩神社へ。

末社の一つに六甲山神社がある。祭神が白山社と同じ菊理媛というのからなんとも親しみがわく。しかし、石製の小さな社だったので拍子抜けしてしまった。越木岩神社のご神体は甌岩。昔は湯気が出ていたという不思議な岩。だから甌岩と呼ばれたという。一帯が石切場であった昔、昭和初期には温泉が出て賑わったとのこともあるという。今では、閑静な住宅地となっている。甌岩は、大阪城築城の際に切り出されそうになったがさすがの御神体。大きな傷は負ったが、そうはさせずここに座りつづけたという。受験祈願で来ていた家族の受験生らしい子供がふざけて岩の前で滑ってしまった。それが原因で猛烈な親子喧嘩が始まった。なんとも複雑な光景であった。

坂道を阪急苦楽園の駅まで下り、駅前の大正庵というソバ屋で山行きを締めくくった。

5. 京都・瓜生山Pw

(報告者 11期 加藤忠好)

- ・実施日 2020 2/13 (木)
- ・報告

近畿支部では、実施日と場所は企画者の都合で決めることになっている。参加者の都合まで考えると精神的に煩雑な仕事となるのでそこまで科すのは酷である。特に高齢者にとっては、



《曼殊院門跡勅使門にて》

1月末、会員に次の内容でメールするとともに、近畿支部のHPに掲示した。

『新型コロナウィルスが騒がれています。今後、どのようになるのか心配なところです。みなさんの予定もあろうかと思しますので、まず実施日を2/13(木)と決めました。場所としては、京都・叡電一乗寺駅から瓜生山あたりを考えています。時節柄、下見を省略し、ワングルの山勘だけで歩くのも楽しいかなとも思っています。企画は往年のブッシュ漕ぎメンバーの伊豫さんと加藤が担当します。(1/29掲示)』

当時、京都でも観光地でなければコロナもそれほど心配ではない。むしろ冬だけに天気の方が心配だった。念のため、雨プロとして修学院あたりの社寺巡りも準備したくらいだった。

朝、メールが飛び交う。天気事項が多い。

「おはようございます。明石の雨はあがったようです。」「堺も止みました。北の空は明るいです。」「宝塚から電車に乗り込みました。6時頃降っていた雨も治まったようです。」「高槻は珍しい濃い霧です。とてもこれから晴れて来るとは思えない感じです。晴れて来るのを期待し出ます。」

雨天だった前々日までの予報が一転し、突然の春日和、まさに三宅晴れになった。最悪でも、雨プロも準備してあったので、現地でも変更も可能だ

ったこともあり、前日に実施と決めたのだ。

叡電・出町柳駅に定刻集合。東海支部からは、野村さん竹本さんが参加された。電車で5分、一乗寺駅で下車、駅のホームでは間所夫妻が待ちくたびれていた。これで全員がそろった。

京都はその名称からか平安時代を想う人が多いが、応仁の戦乱があったため、京都で追体験できるのは江戸時代以降の文化である。しかし、観光客が集中する超有名地は観光向けの顔、真に昔の京都らしさを求めるのなら郊外の方が良い。その一つが一乗寺、修学院あたりであろう。

駅からゆるゆると坂を登ると、宮本武蔵で有名な「下り松」だ。記念碑が建つ小さな公園で記念写真とトイレ休憩。「舞楽寺跡」の碑を過ぎると登山口。今は一乗寺も舞楽寺もなくこのあたりにある寺は殆どが江戸期以降の寺だ。登山口からは花折断層による急崖をあえぎあえぎ登る。やや平坦になり少し行くと石川丈山の墓。最初の休憩地だ。彼の住居跡という詩仙堂には多くの人が訪れるが、ここまで来る人は殆どいないだろう。

ここからの道は、去年の台風によってだろうか多くの倒木が道を塞いでいた。越えたり潜ったり子供のように楽しんだ。倒木の道を主稜線まで来ると「白幽子旧居跡」まですぐだった。丈山や白幽子のことは良く知らないが、江戸初期の隠遁的文化人のようだ。平安時代の聖人や江戸期の文化人が山を好んだというのを聞けば、聖人から程遠いとしても山好きな我々としては嬉しくなる。



《倒木の多い山道：去年の台風のため》

かつての白川石(御影石)の石切場はパスし、瓜生山へ(山頂着11時半)。山頂は木々が茂り展望は良くないが、ちょっとした広場になっている。昼食にはちょうど良い。伊豫さんがいつものように温かい汁物を作ってくれ、赤地夫妻がぜん

ざいを作ってくれた。ここまで準備し、運んでくれた歩荷力に感謝、そして何よりもおいしい。あくせく歩くのも良いが、山上でこのような食事をしたという体験は良き思い出になる。



《瓜生山頂での憩い》

標高301mの山頂の広場は、中世の山城跡の名残だ。また、瓜生山という名称は、牛頭天王（祇園さん）が播磨の国から京都に移る際に、まずこの地に降臨したからで、その牛頭天王の好物が木瓜だったということのようだ。瓜生山頂には古墳の内郭を思わせるような石造りの立派な祠が残っているが、かつては勝軍地蔵がここに祀られていたのだ。山頂では参るのに不便だろうとて、江戸時代に山麓に遷されたとか。日本では会いにいかなくとも、ありがたい神仏の方が人間に合わせてホイホイと引っ越ししてくれるようである。

山頂から稜線を少し北上すると、かつて出城があった白鳥山だ。このあたりから、京の西に聳える愛宕山や京都北部の市街地が一望できた。



《曼殊院の縁側での日向ぼっこ》

稜線をたどれば比叡山に達するが、途中から林道を使い曼殊院に下った。ここの門前にも天満宮があった。曼殊院は、神仏分離まで北野天満宮の別当を務めた格式の高い門跡寺院なのだ。トイレ休憩も兼ねて拝観。滞在中の参拝者は我々だけ。

縁側に坐し日向ぼっこを楽しみつつ庭園を鑑賞した。滝石から流れる水が山川を下り大河を成し大海に至る様子が岩と砂で表現されていた。

次は修学院離宮の向かいにある解脱山禅華院の拝観だ。この時期だけ釈迦涅槃図のご開帳があるのに合わせたのである。ご住職による涅槃図の説明があり、京番茶と花供曾が供された。京の山行きだからこそできたゆしみだ。裏千家「今日庵」の由来となった大徳寺170世の清巖宗謂が中興した寺ときけば、なおさら親しみがわく。

寺を出て、修学院離宮の正門で記念撮影、鷲森神社では恒例の羊羹の大中小を楽しみ、雲母漬けで有名な徳野出に立ち寄り、魅力屋本店（ラーメン）で打ち上げた。外に出るとすっかり暗くなっていた。歩いてすぐの修学院駅で解散した。

6. 宝塚・大峰山Pw

（企画者 16期 井上敏明）

- ・実施日 2020/3/26（木）
- ・中止連絡：16期井上です。（以下要約）

ニュースはこのところ、コロナの話が中心となって、やや食傷気味な今日この頃です。ただ、感染者数は着実に増大し、今や、誰から感染したのか、感染ルートが追えない程、市中に蔓延した感があります。

自粛に対する考え方は色々あり、極度の自粛は、経済を打撃し、個々人が出歩くこと迄、自粛すべきでないとの意見もあります。山中でのコロナ感染は考え難いと思いますが、ただ、OB会開催のPWは、遠方の方であれば長距離の交通機関を利用し、且つ、店に寄り、各所のトイレも利用すると思います。これが元で、若し罹患すれば、わたくし共は高齢でもあり、重大な症状が危惧されます。よって、国の要請に応じ、今回は自粛することとします。

7. 2020 サンマP

（連絡者 11期 加藤忠好）

・連絡：近畿支部発足当時からつづいてきた秋のサンマPですが、新型コロナウイルスについては、なんといっても高齢を誇る我々のような集団が飲み食いをするのが一番危険といわれているので、支部長の金岩さんとも相談し本年は中止することとしました。

近畿支部の活動まとめ (前回報告2019/6月清和源氏ゆかりの地巡りPw以降)

2019 10/29(火) ～10/30(水)	令和最初のサンマパーティ (企画運営) 間所新、間所美、三宅、金井、加藤忠、加藤智	参加者14名
金岩⑤、伊豫欣⑧、高水間⑧、篠島⑧、森川⑪、加藤忠⑪、加藤智⑪、金井⑮、佐野⑮、 間所新⑮、間所美⑮、三宅⑮、川端⑯、黒崎㉓ < ⑯、㉓などは期です >		
実施場所 ビラデスト今津 (滋賀県高島市今津町)		
2019 11/21(木)	大塩・のじぎくPw (企画 加藤)	参加者14名
金岩⑤、伊豫欣⑧、伊豫敦⑩、畔山宏⑪、加藤忠⑪、加藤智⑪、赤地賢⑫、赤地喜⑭、 上馬康⑮、上馬敏⑮、鈴木⑮、高村⑮、三宅⑮、井上⑯		
山陽大塩駅～元大塩村道路元標～元北浜村道路元標～北脇新池～大谷峠～いたち山(昼食)～ 亀岩～一本松山～牛谷峠～赤山～大塩城址～馬坂峠～二ツ岩～日笠山～のじぎくの里公園～ 中澤～大塩公園～すし辰(打ち上げ)～山陽大塩駅(解散)		
2019 12/13(金)	京都・松尾山唐櫃越Pw (企画 三宅)	参加者17名
金岩⑤、伊豫欣⑧、篠島⑧、伊豫敦⑩、島林⑩、畔山宏⑪、加藤忠⑪、加藤智⑪、森川⑪、 赤地賢⑫、宇野あ⑮、金井⑮、鈴木⑮、間所新⑮、間所美⑮、三宅⑮、井上⑯		
阪急嵐山駅～松尾山登山口～渡月橋展望地～松尾山山頂～展望地(昼食)～西芳寺川～ 丁塚～東ベンチ～中ベンチ～西ベンチ～ソヨゴ坂分岐～野鳥遊園～桂坂小学校前BS＝ 阪急桂駅前～GlassHopper(打ち上げ)～待夢アマンド～阪急桂駅(解散)		
2020 1/22(水)	六甲・観音山Pw (企画 加藤)	参加者11名
金岩⑤、伊豫欣⑧、篠島⑧、伊豫敦⑩、畔山宏⑪、加藤忠⑪、加藤智⑪、楠屋⑭、上馬⑮、 高村⑮、三宅⑮		
奥池貯水池碑～いもり池～ごろごろ岳～獅子岩(昼食)～観音山展望岩～鷲林寺～夫婦岩～ 北山貯水池～北山公園～越木岩神社～大正庵(打ち上げ)～阪急苦楽園口駅(解散)		
2020 2/13(木)	京都・瓜生山Pw (企画 伊豫・加藤)	参加者16名
金岩⑤、伊豫欣⑧、伊豫敦⑩、畔山宏⑪、加藤忠⑪、加藤智⑪、赤地賢⑫、野村⑫、赤地喜⑭、 宇野あ⑮、高村⑮、間所新⑮、間所美⑮、三宅⑮、井上⑯、竹本㉓		
叡電・出町柳駅＝一乗寺駅～一乗寺公園～舞楽寺跡石碑～石川丈山の墓～白幽子旧居跡～ 瓜生山山頂(昼食)～白鳥山山頂(出城跡)～林道～天満宮～曼殊院・拝観～雲母坂道標～ 禅華院・拝観～修学院離宮～鷲森神社～穂野出～魅力屋(打ち上げ)～修学院駅(解散)		
2020 3/26(木)	宝塚・大峰山Pw (企画 井上)	新型コロナのため中止
2020 は以降秋まで	山行き、サンマPなど、新型コロナが終息しないため実施せず	

